

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	173700295		
法人名	社会福祉法人 大滝福祉会		
事業所名	グループホーム癒しの郷		
所在地	北海道虻田郡洞爺湖町川東80-19		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所周辺は、洞爺湖と山に囲まれた恵まれた自然環境の中に立地しており、建物は天井が高く開放感があり、ご利用者にはゆったりとした時間を過ごしやすい環境となっております。そんな環境の中でご利用者・ご家族とのコミュニケーションを大切にしながら、家庭的な生活が送れるように支援しております。また栄養士の資格をもった職員が、ご利用者の希望に沿った献立の作成や栄養相談を行うことで、おいしく栄養バランスのとれた食事を提供することが可能です。

今後も理念の実現を目標として、ご利用者の生活がより良いものとなるため、より良いケアを提供していくために、法人内外の研修には積極的に参加し、新たな情報を受け入れつつ、地域との交流を大切にしながら地域に根ざした事業所、地域に必要とされる事業所を目指しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojohokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173700295&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)4階
訪問調査日	平成23年3月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の経営理念・ケア理念、更には利用者の権利の実践化を目指す「身体拘束ゼロへの手引き」「プライバシー保護マニュアル」「苦情相談マニュアル」を始め、各種の手引き・規程・指針などを定め、職員の経験年数や習熟度に応じて、法人や事業所で研修の機会を設け、スキルアップを図ると共に利用者本意のケアの実践に取り組んでいる。運営推進会議や家族会は、事業所の運営に協力的で積極的に関わりを持ち、良好な関係を築いている。利用者は、居間から洞爺湖を一望し、当地における数拾年の生活の延長上にある和みの環境の中で、人の温もりと木の温もりに包まれ、自己のペースにそって穏やかに思い思いに過ごし、その人らしく暮らせる支援が行われている。利用者にとって安らかで、家族にとって安心の持てるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、住み慣れた地域での生活の支援を大切にしている。 ・事業所と地域の関係性を重視した、理念をつくり、理念カードの携帯や理念を施設内に掲示して、職員間で共有している。また、理念について施設内研修も行っている。	法人の経営理念・ケア理念を具現化し、地域密着型サービスとして何が必要かを考え、独自の理念を作り上げている。施設長は談話形式で意識付けを図り随時の振り返りを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域住民の一員として、自治会に加入している。また、日常的に、散歩や地域のお店に買い物に出かけ、挨拶を交わしている。また、初詣やおまつりなどの地域の行事にも参加したり、家族会を行い地域の方へ参加も行っている。地位の方から収穫物のおすそわけや自治会の新年会にも参加している。 ・運営推進会議に利用者にも出席して頂き、情報交換の交流の場としている。 ・地域住民の雪下ろしのボランティアを受け入れている。	自治会に加入し、外出時は地域住民と親しく挨拶を交わしている。初詣や祭りなどの地域行事に参加し、家族会と共に地域との交流を積極的に行っている。	全町高齢者の見守り支援を目的にSOSネットワーク立ち上げを目指し、職員研修・地域への呼びかけ・運営推進会議へ参加協力要請などを行っているが、自治体とも協議し早期実現することを期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症についての講義などを行っている。 地域ケア連絡会に出席させて頂き、情報交換を行っている。 人材育成の貢献として、実習生を受け入れている。 SOSネットワーク研修へ参加している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議では、利用状況、事故や苦情、ヒヤリハットの報告、取り組み状況を説明しており、助言、アドバイスを頂いている。また、課題としてあがった件に関しては、出席者からも意見や質問も頂き、サービスの向上に反映させている。	行政・地域・家族の各代表をメンバーに2か月毎に開催し、事業所の現状について報告・協議・連絡を行い、質の向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・必要時、市町村担当者と連絡をとり、助言、アドバイスを頂いている。 ・地域ケア連絡会に出席させて頂き、情報交換を行っている。	運営推進会議を通して事業所の現状理解を深め、地域ケア連絡会で研修や情報提供などの共有を図っている。必要に応じて相互に電話連絡を行い連携を深めている。		

グループホーム 癒しの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する、研修を事業所内で実施し、また、「身体拘束ゼロへの手引き」をマニュアルへ盛り込み、職員同士、徹底理解を図っている。また、運営推進会議で認知症の理解の求め、玄関を施錠しない事によるリスクなども把握して頂き、連絡体制の確保に努めている。	身体拘束ゼロへの手引きをもとに事業所内研修を行い、国が示す身体拘束の対象となる具体的な行為の理解を図り、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を行い、どんな事が虐待に該当するのか、どんなケアが不適切なケアにあたるのか、事例検討を用いながら職員同士確認を行い、虐待防止に努めている。					
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者はいないが、必要時、全職員が対応出来るよう研修を実施している。また、契約時には、本人、ご家族に制度の説明をしている。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明しており、特に、利用料金や医療連携、起こりうるリスクなどについては詳しく説明し理解、納得、同意を得ている。					
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話の中で、希望、要望を聞きだし、生活要望書を活用して、出された意見をサービスに反映させている。また、御家族が面会された際には、要望などを聞き取り、出された意見は職員会議やミーティングで検討し、サービスに反映させている。	利用者との日常会話の中で聞き出した希望・要望などは生活要望書を活用し、経過・解決を明確にし、家族からの要望などは職員会議などで検討し、共にサービスに反映している。				
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、職員会議、個人面談などで、意見を聞きだしている。また、普段からコミュニケーションを大事にして、意見が言いやすい環境づくりを心掛けている。	職員会議や個人面接などで意見を聞き出しているが、随時の話し合いを大切に意見を聞き、運営に反映している。				
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人に「ココロリフレッシュルーム」を設けており、業務でのストレスや悩み事を、相談できる環境がある。福利厚生の一環で、ホームヘルパーの資格取得を無料で受けられる。職員の心身の健康を保つため、年に2回職員の健康診断を行っている。休憩室を確保しており、職員がゆとりと休める環境作りに配慮している。個人面談を行い、個別職員の業務や悩みなどの把握に努めている。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数、習熟度、職種別の法人研修を開催しており、研修後は職員会議等で報告会を行い、情報の伝達、共有に努めている。また、法人外の研修にも参加する機会が多くある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連絡会に参加しており、他事業所の職員と情報交換する機会がある。また、法人研修で交流会を行っており、他事業所の職員と情報交換する機会がある。職員の相互研修を行っており、また、必要に応じて法人内の他グループホーム間で意見や情報交換を行い、より良いケアの提供に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、生活の中で困っている事や利用する事での不安な点などの把握に努め、本人が安心して利用ができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い、生活の中で困っている事や利用する事での不安な点などの把握に努め、事業所としてどのような対応が出来るかを説明し話し合いを行っている。また、担当ケアマネージャー等と相談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に事業所に見学などで事業所に来ていただき、その際に利用者や職員と短時間でも過ごして頂くなど、除々にサービスに繋げている。また、相談を受けた際には、その時に必要なサービスを見極め、他事業所の関係者と話し合いを行い、適切に対応する事ができる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の不安やうれしい事、困っている事などを把握する事に努め、生活の中で交流の機会を多くもち関係を築いている。また、時には利用者から教えて頂き、そのような場面や環境作りにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活に疑問を感じたら、御家族に詳しく情報提供を行い、また、助言を頂いたり、情報交換を行う等して、ご家族にも協力して頂きながら、一緒になってケアを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との会話の中で出てくる、人物や場所、キーワードを把握し、必要によっては、御家族からも情報を頂き、その情報を支援に活かし、なじみの場所に出掛けたり、なじみの方に面会に来て頂くなど、配慮している。	利用者との日常会話や家族からの情報をもとに、人や場所など地域社会との関係性を把握し、多くはないが人の来訪や場所への往訪支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係についての情報を職員が共有している。また、その日によっては状態が変わる事もあるため注意深く見守りを行っている。 利用者同士交流が図れるよう、職員が話題の提供をするなど、環境作りに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後のサービスに繋げる為に、相談や援助、情報提供などを行える体制が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で交流を図り、声掛けを行ったり会話の中で希望などを把握している。また、意思疎通が困難な方には、ご家族から情報提供を頂いている。 「生活要望書」を活用している。	日常生活の中で会話を通し、困難な場合は表情や言語が何を意味するかを職員同士が意見交換をし把握している。何れの場合も事業所独自の共有シートを活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の生活歴を知る事が、その人への理解に繋がっている事を重要な事と考え、本人をはじめ、ご家族や地域の方、知人や関係者から、情報を頂き、サービスに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、温度版、健康管理表から、ひとりひとりの生活のリズムを把握するとともに、できる事、できない事の把握にも努めている。また、職員会議やミーティングを開催して、職員同士共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良いケアを提供するために、日々の暮らしの中でご本人の希望、要望などの意見を聞き取り、また、御家族からも要望等を聞き、定期的にモニタリングした結果を元に、カンファレンスを開催し、ケアプランに反映させている。	状況を把握してアセスメントを行い作成した計画は、定期的なモニタリングを基にカンファレンスを行い、全職員の意見反映がなされ、現状に即した介護計画を作成している。	

グループホーム 癒しの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、温度版、健康管理表で日々の暮らしの様子や、状態の変化の把握に努めている。また、その情報をケアプランの見直しに活用したり、記録に関しては、勤務開始前の確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院やドライブ、買い物や地域の行事など一人ひとりの要望に応じた対応している。家族が宿泊を希望された時には、宿泊できる体制が整っており、また、利用者と一緒に食事を摂りたい時には食事の提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、民生委員や消防職員、また、地域支援センターの職員が参加し、情報交換を行っている。消防職員の協力を得た避難訓練や、地域行事への参加、地域のお店での買い物を行っている。また、訪問の理美容、地域の方のボランティア(お琴の会)の受け入れも行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう配慮している。また、主治医の変更などを勧めたりせず、希望の病院への受診するために通院介助や往診に来てもらう等、複数の医療機関との関係を結んでいる。利用者に心身に異常が見られた際には、すぐに、協力医に連絡をとり、指示、助言を頂いている。また、受診結果について、御家族に報告を行い心身状況の共有を図っている。	利用者の希望により主治医の他、以前からのかかりつけ医により受診している。一部かかりつけ医の訪問診療の他は通院介助を行い、受診結果は家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していないが、協力医療機関の看護師に生活状況や心身の状態に変化が見られた際には、すぐに連絡を取り助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを防ぐ為に医師と話し合いを行い事業所で対応可能な段階なら、早く退院できるよう相談を行っている。また、入院時は職員が頻繁に見舞う事で、状況を確認し、家族とも回復状況など情報交換を行い、早期退院の支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期ケアに向けて、研修を行い、今後対応できる体制の確保に努めている。また、契約時に現在施設で対応できる範囲を説明し理解を頂いている。	看取りマニュアルを作成し、職員の研修を行い今後の体制確立に努めているが、入居時には事業所の現状で対応できる範囲を説明し理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を職員全員が受講しており、応急処置など、全ての職員が対応できるよう努めている。また、施設内研修を行っており、緊急時のフローチャート図を盛り込んだマニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回自主避難訓練を行っている。また、消防の協力を得ての避難訓練も行い、災害時には、地域の方とも連携が図れるよう協定を結んでいる。施設内研修を行っており、災害対策についてのマニュアルを整備している。	災害・地震その他の災害マニュアルを作成し、毎月の自主訓練と年2回の消防署指導による訓練を行っている。自動火災通報装置を設置し、災害時には地域連携の協定を結んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修を実施しており、本人の気持ちを大事にして、さりげない見守りや声かけの対応に努めている。また、個人情報の守秘義務について十分理解し、責任ある取り扱いと管理を徹底している。	プライバシー保護マニュアル・個人情報保護方針規定などを作成し、事業所・法人における研修を通し、日常的な取り組みと確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ひとりひとりに合わせた声かけに配慮しており、何を行うにも利用者によって頂き、自己決定に配慮した声かけを行っている。自己決定が困難な方には、ホワイトボードを使用した、「はい」「いいえ」で答えられるような、簡単な質問を行ったり、表情や全身の反応を細かくキャッチしながら、希望や願いを汲み取っている。また、ご家族からも情報を頂きながら、把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の生活に配慮しており、時間を区切った生活は行わないよう心がけ一人一人のペースに合わせた生活に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容に関しては本人が望まれるお店で行えるよう配慮している。また、衣服に関しては利用者と職員と一緒に買い物に出掛け、本人に選んで頂く事ができている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者との会話の中で、好みのメニュー等を聞き出し、献立に反映している。また、野菜の皮むきや、盛り付け、配膳、下膳、茶碗洗い等も利用者と共に行い、職員も一緒になって食卓を囲み、食事を楽しい時間になるよう配慮している。	利用者は米とぎ・盛り付け・配下膳・茶碗洗いなど、職員と共に食事の一連活動に参加している。利用者の好みを献立に反映したり外食を取り入れるなど、食事を大切な活動の1つにしている。	

グループホーム 癒しの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表にて、水分摂取量、食事摂取量を記録し、管理している。また、水分に関しては、多種類の飲み物を用意しており、その都度本人に聞きながら、提供している。食事に関しては、ひとりひとり食べられる量を把握しており、適切な量と適切な食事形態で提供している。また、栄養士が栄養相談や助言を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の歯磨きや個別の口腔ケアを行っており、昼食後にはうがいを促している。自立にて出来る方には、声掛けを行い行って頂き、見守りの対応をしている。出来ない方には、介助にて口腔ケアを行い、嚥下障害による肺炎などの防止にも努めている。また、個別に合わせた、道具を使用していたり、歯科受診も行っておりその際、医師から使う道具などの助言も頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンをの把握に努め、尿意の無い方には、声掛けを行い誘導しており、トイレの排泄を心がけている。また、自尊心に配慮し、必要最低限の介助を行っている。職員会議やミーティングなどで、個人に合わせた、排泄の仕方や下着やオムツの使用に関して話し合いを行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、声掛けや誘導によりおむつを外しトイレ排泄へと、排泄の自立支援の成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄パターンをの把握に努め、便秘気味の方には、おなかの張り具合を聞いたり、本人の要望により困難時に下剤の使用を行っている。また、排泄困難時などには、協力医に相談を行っている。また、食事の面からも本人に便秘のメカニズムを説明し、理解を得て水分摂取や食物繊維の多い食品を残さないで食べて頂けるよう声掛けを行ったりなどの工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の際には、可能な限り、本人の希望に沿った時間や曜日で支援している。入浴拒否がある方には、入浴に対する、不安や恐怖心を聞き出し、それを取り除けるようなケアに配慮している。また、入浴剤を使用し入浴を楽しんで頂いている。	利用者の体調や希望に沿った曜日・時刻に入浴が出来るように支援し、拒否者には原因を取り除くケアに努めている。入浴剤を使用し入浴を楽しんで頂いている。	

グループホーム 癒しの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時には、自由に休んで頂き、夜に寝る時間も本人に決めて頂いている。また、日中はなるべく活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。本人にとって安眠しやすい環境をつくる為、ベッドの位置等、本人と一緒に決めて頂き、配置している。また、眠れない方に対しては、リビングで水分を取りながら、職員と会話して過ごしたり、暖かい牛乳を望まれる方に提供している。また、なぜ眠れないのか、本人から聞き出したり、職員同士、日中の生活を振り返り、疾病が原因しているのか、医師とも相談を行い、原因の解明に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの薬の情報を個人ファイル、温度版、健康管理表で管理しており、職員同士の共有に努めている。また、服薬マニュアルを作成して服薬支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的なアセスメントの中から嗜好の確認を行い、生活の中に取り込んでいくようにしている。また、作業する際には、職員から一方的にお願いするのではなく、本人と相談しながら決めていく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお店での買い物、畑仕事、雪かきや、行き慣れた美容室に行くなど、戸外で活動する機会を設けている。	日常的には散歩・買い物・畑仕事・雪かきなど、戸外活動の機会を作ると共に、事業所の車で外食を取り入れたドライブや理美容院など個性の外出支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は行っていないが、買い物等の必要時には御家族に連絡を取り、現金を本人の管理の元、小額持たせていただき、お金を使う事で社会性の維持に繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から要望があった際には、自由に電話を使用していただいている。また、御家族や知人にも、職員から、時折電話して頂くようお願いする事もある。年賀状を出すための支援を行っている。		

グループホーム 癒しの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広間の飾りつけや季節感のあるものを意識して飾っており、また、飾りつけの際には、利用者にも参加していただき、自分の住居だということの意識を高めている。	木の温もりが漂う高い吹き抜け造りの居間兼食堂は、生活感を採り入れ五感刺激の配慮がなされ、安心し穏やかに居心地よく過せる共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置などに配慮している。セミパブリックスペースに関しては、不十分で今後検討したい		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・御家族と相談を行い、使い慣れたものを持ち込んで頂き、使っていただく事で、住み慣れた空間に配慮している。	居室内の電燈・カーテン以外の全ては、利用者持参の馴染みの物である。家族の協力を得て家具類の配置や写真・作品の掲示など、居心地よく過せる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかる力を活かして、混乱がないよう目印をつけたり、物を置く場所に配慮している。また、本人にとって「何がわかりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるのか」を職員同士話し合いを行い、状況に応じた環境整備に配慮している。		